

「2019年度 北海道高住協向け会員アンケート」集計

2020年2月吉日

(一社) 北海道高齢者向け住宅事業者協会 事務局

高住協会員の皆様へ

会員各位におかれては、平素より本会活動に御支援をいただき、ありがとうございます。

昨年12月に会員のニーズを改めて把握することを目的に、「会員向けアンケート」をお送りし、2020年1月末の締め切りまでに12名の会員よりご回答をいただきました。回答いただいた会員の皆様にはこの場をお借りし、御礼を申し上げます。

以下、アンケート回答コメントをできるだけそのまま列記し(ご意見いただいた方のイニシャルを記載)、会員の皆様にご報告いたします。本内容は理事会に報告し、新年度事業計画の参考とさせていただきます。

(1) 本会会員相互、ならびに高齢者向け住宅事業者間にどのような連携が必要でしょうか？

- 1A: ・飲み会の開催！定期的に開催することで人のつながりが広がり、会員増にもつながるのでは(SM氏)
- 1B: ・私たちは後発のサ高住事業者のため、先に運営されている住宅の方からの情報が欲しく、そのような情報交換、質問ができる「場」が欲しい。(UK氏)
- 1C: ・高齢者向け住宅に選ばれるための連携であり、その地域性の情報の共有が必要。(ST氏)
- 1D: ・①お互いの住宅の空き状況を共有できる。②職員研修(例:看護師がいる事業所で感染防止研修、社会福祉士がいる住宅では虐待防止研修をおこない相互に参加するなど)を協力して行う。(NT氏)
- 1E: ・設備や運営方針・介護サービスやマナー・入居者ファースト等の考え方が違う事業所が多く、基本的に経営的にはライバル会社となるため、どの様な連携が妥当なのか難しさを感じます。ただし、監査指導や行政指導等の実施に関する情報提供は参考になります。(NN氏)
- 1F: ・交流の機会がもっとあってもよいと思いました。それぞれの住宅の特色、強みを知り、ざっくばらんにお互いの思いや悩みを話し合う機会があっても良いかもしれません。また、高齢者の暮らしの場として働ける場(報酬や賃金は低くても生きがいや「役割」として)を創り上げるためにどこかとタイアップすることなどには大いに興味があります。そういうこと、できませんかね？(SN氏)
- 1G: ・住宅の現状と課題の情報共有、その解決に向けた話し合いなど。(KM氏)
- 1H: ・正会員、賛助会員それぞれの事業内容や特徴などを知ることができる会合等の企画を検討願いたい。役員以外は知らないのではないか？(FY氏)
- 1I: ・事故および苦情に関する情報(件数、内容、特に防止に関する取り組みなど)等、リスクマネジメントに役立つ情報の共有の連携が必要と感じている。それが運営の透明性にもつながると感じている。(IK氏)

(2) 現在実施している「事業者・管理者研修」、「相談員研修」、「虐待防止研修」以外にどのような研修を希望されますか？

- 2A: ・以下、いずれも有料老人ホーム運営指導指針の必須研修である「高齢者の心身等に係る研修」、「事故発生防止のための研修」、「感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のための研修」、「身体的拘束等の適正化のための研修」など(NH氏)
- 2B: ・ハラスメント研修、採用と定着に向けた取り組み、労務管理(KM氏)
- 2C: ・人材確保対策に関する研修(SM氏)
- 2D: ・業務改善や効率化の州法等のテクニカルな研修を開催してほしい(例:シックスマグマ等)。(UK氏)
- 2E: ・①病院や介護事業者との連携研修。②高齢者向け住宅における看取り研修。(ST氏)
- 2F: ・住宅の義務研修が網羅されると良いと思います。(NT氏)
- 2G: ・①住宅内での感染症対策及び対策備品(インフルエンザ予防・ノロウイルス処置)、②ハラスメント対策、③接遇、④看護師や介護職員への指導、⑤家族対応等。(NN氏)
- 2H: ・最近、ゆるく広く勉強しようという趣旨の勉強会に良く参加しています。「暮らしの保健室」、あおいケアのKさんについてのお話はとても勉強になりました。住んでいる人にとって、ここに来て良かったと思えるような試みをしているところのお話は聞いてみたいと思います。(SN氏)
- 2I: ・①事故防止対策研修、②往診、看取りについての研修(KM氏)
- 2J: ・①カリキュラムのトータル時間が長い研修は前期と後期とに分けてはどうか？②研修を受けて実践し、どうなったかのフィードバック(フォローアップ)研修があればよいと思う、③地域医療・福祉連携研修、④リスク検討会などの研修。(MW氏)
- 2K: ・サービス向上(入居者の満足度を上げる)を目的とした研修を希望します。例として、「接遇」、「イベント」、「食事提供の工夫」等。(IK氏)

(3) 「事業者勉強会」で取り上げるべきテーマをお教えてください

- 3A: ・①ハラスメント研修、②採用と定着に向けた取り組み、③労務管理(KM氏)
- 3B: ・①働き方改革、②ハラスメント対策(NH氏)
- 3C: ・①介護報酬改定について、②高齢者の住まいとしての有老、特養、サ高住などの違いを一覧表を使って解説していただきたい(SM氏)
- 3D: ・高齢者向け住宅にでの看取り。(ST氏)
- 3E: ・入居者の健康管理の視点について。(NT氏)
- 3F: ・①介護サービス、②認知症対応、③入居者に対する接遇マナー、④入居者ファースト、⑤監査指導、行政指導等の対応。(NN氏)
- 3G: ・以前、共生型の講演の時にはたくさんの方の参加があったと記憶しています。より良い暮らし、介護を考え、それを目指したい人もたくさんいると思います。働く職員の葛藤や迷い、不安などを掘り出すようなワークショップ、意見交換などは実際に行ってみて非常に良いと感じました。それは、職員が定着するための取り組みとしても役立つと思いました。(SN氏)

3H: ・①医療との連携、②リスクマネジメント(KM氏)

3I: ・①アウトソーシングサービスやシェアードサービス(人材育成へ掛ける時間・仕事の効率化・現状を把握し品質を上げるため)、②人材育成に係る負担軽減のための技術継承研修会・講習、③企業に対する国の制度や仕組み、企業を支えるための制度などの紹介。(MW氏)

3J: ・高齢者の理解を深める機会として、世代別の価値観、常識、社会背景をテーマとして勉強会を開いてほしい。(IK氏)

(4) その他 高住協としての取り組むべき課題、要望、期待などご自由にお書き下さい

4A: ・グループホームや特養に入れられない人達の受け皿としての機能が求められる。(ST氏)

4B: ・高住協に入会している、横の繋がりが持っていない。管理者や管理会社が変わることが多い業界なので仕方がないのかと思うが…。(NT氏)

4C: ・厚生労働省も後付けで介入しているため、①サービスの質の向上、②災害時の物品備蓄完備、③高齢の入居者が困らないような対策や対応(入居者ファースト)、④高齢者のための避難訓練、⑤優良サ高住のランキング(競い合い切磋琢磨で質の向上を目指す)、⑥入居者からの要望等に柔軟に対応できる体制づくり、⑦安心感を与える住居づくり、等々。(NN氏)

4D: ・事業者勉強会や研修のお知らせが、いつもシフトを作成した後に届きます。もう少し早く届くと助かります。年間予定表などがあると予定が組みやすいです。(SN氏)

4E: ・市などの自治体はより一層、サ高住の整備予算を組み、補助条件もこれまでに比べ優遇さなければならぬと思います。供給の少ない地域では、高齢者が住み慣れた土地から離れた地域のサ高住に入居しなければならないケースもあります。また、医療、介護サービスが不十分な地域ではサ高住が孤立してしまう可能性もあります。だからこそ、それぞれの地域で、高齢者がどう増えるかを見据え、対応するには現行より市町村の権限を大きくする必要があります。

さらに、24時間対応の定期巡回や随時対応型の訪問介護・看護、小規模多機能型居宅介護などの事業所を併設するサ高住が少ないことです。地域包括ケアシステムでは、住まいとしての機能と、地域サービス供給拠点としての機能の両方を併せ持つ「拠点型サ高住」の整備の促進が重要と考えます。さらに、今後は「空き家の活用」も求められます。既存住宅を活用した「分散型サ高住」、空いた住戸を改修して、団地内のサービス拠点から見守りなどの基礎サービスを提供する試みで、これからこうした取り組みを増やす必要があると思います。(MW氏)

4F: ・行政に対しての圧力団体となる存在になってほしい。他の団体にはない特徴を明確にして、会員の「和」を拡大すること。(FY氏)

4G: ・現場として感じていることは、高住協は遠い存在で、どのように接していけば良いのかわからない。地域担当者等(例えば道振興局単位)が居てくれると意思疎通が図りやすい。また、事業者同士での連携は困難なので、橋渡し役になってくれることを期待する。入居者の満足度を上げるツールの提供(提案)をしてみてもどうか。

現在、会費を払っているが、サ高住運営上のメリットを今のところ感じない。(IK氏)